

木曽地域の魅力を探る－2008年度木曽町におけるアンケート調査の分析－

Analysis of Attractive points to visitors at Kiso district from the questionnaire in 2008

鈴木 尚通・葛西 和廣・佐藤 進

〈 目 次 〉

1. 序
2. 調査結果の分析
 - 2－1 来訪者の年齢層
 - 2－2 旅行日程
 - 2－3 現在地における滞在予定時間と旅行相手
 - 2－4 主な交通手段
 - 2－5 権兵衛トンネルの利用度
 - 2－6 現在地への来訪頻度と来訪目的
 - 2－7 情報収集の方法
 - 2－8 木曽地域で楽しんだこと
 - 2－9 求める情報
 - 2－10気に入っている観光スポット
 - 2－11旅行予算とお土産
 - 2－12木曽の印象
3. まとめ

1. 序

木曽町における観光客に対するアンケート調査は今回（2008年）で4回目になる。今までの3回は7月または8月に木曽福島地区で行われてきた。2008年の調査は、調査日を秋の10月25日（土）に設定し、11時頃から15時頃まで、木曽福島地区（山村代官屋敷、足湯、上の段の街並み）に加えて、開田高原アイスクリーム工房前で行った。今回は木曽福島地区の調査地点はほぼ3カ所に固定した。山村代官屋敷は、団体客がよく訪れるスポットなので、団体客からのアンケートが増えることを期待して調査地点に追加した。また、開田高原アイスクリーム工房前は開田高原を訪れる人たちが一休みする地点で、調査に協力していただきやすいと考え今回初めて調査地点に加えた。これにより、木曽福島地区を訪れる観光客と開田高原を訪れる観光客に差異があるかどうか分析することが可能になる。当日の天候は曇りで、調査時間帯の気温は木曽福島地区では13℃台、開田高原では10℃～11℃であった。

アンケートに答えてくださった方は、木曽福島地区では42人（足湯20人、上の段の街並み8人、代官屋敷14人）、開田高原では75人、合計117人であった。117人の性別は男性64（53.8%）、女性53（45.1%）であった。来訪者の居住県は、長野県24人、愛知県46人、岐阜県12人、静岡県2人、その他（都道府県）32人、無回答1人であった。

長野県からの来訪者16人の中で、居住市町村名を記入された方は、長野市2人、松本市2人、塩尻市2人、木曽町2人、伊那市、駒ヶ根市、諏訪市、波田町、箕輪町、飯島町、各1人の合計14人であった。その他都道府県32人中31人の方が居住都道府県を記入されていて、その内訳は、東京都7、大阪府4、三重県3、群馬県2、埼玉県2、神奈川県2、千葉県2、山梨県2、愛媛県2迄が2人以上で、茨城県、富山県、京都府、兵庫県、長崎県各1人であった。

以下では117票の回答を、長野県内（24人）、長野県近隣の3県（愛知県46人、静岡県2人、岐阜県2人）（合計60人）とその他都道府県（32人）に分けてクロス集計を行った。

2. 調査結果の分析

以下では、アンケート項目に対する回答を、長野県からの来訪者（24人）、愛知他2県（愛知、静岡、岐阜）からの来訪者（60人）、その他都道府県（32人）の3つの居住地域に分けて解析し、図または表の中では、それぞれ、長野県、愛知他、その他と表示する。項目によっては全117票を単純集計した上で、居住地域別の集計を分析した。

性別は、長野県では計24人の中で、男性12人（50.0%）、女性12人（50.0%）、愛知他2県では60人中、男性30人（50.0%）、女性30人（50.0%）、その他都道府県32人の内訳は男性21人（65.6%）、女性11人（34.4%）であった。

2-1 来訪者の年齢層

図1に年齢層別の集計結果を示す。来訪者の最も多い年齢層は、長野県では20歳代29.2%（7人）、愛知他（近隣3県）では50歳代と60歳代がともに26.7%（16人）、その他（都道府県）では60歳代40.6%（13人）であった。長野県から地理的に遠くなるほど年齢層があがる傾向にある。50歳以上の来訪者を比較すると、長野県41.7%（10人）、愛知他55.5%（33人）、その他都道府県71.9%（23人）と、やはり長野県から遠くなるほど50歳以上の来訪者の比率が高まる傾向にある。

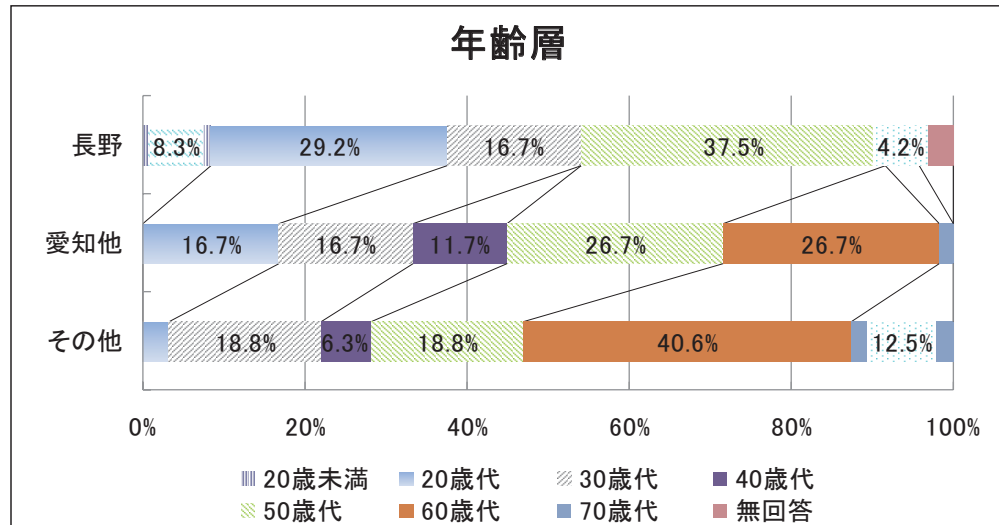


図 1. 来訪者の年齢層.

2－2 旅行日程

来訪者の旅行日程を図 2 に示す。長野県からの来訪者は、日帰り91.7%（22人）、1泊2日4.25%（1人）、無回答4.25%（1人）であった。立ち寄り先を書いてくださった方は1人で、開田高原（調査地点）であった。

愛知他2県は、日帰り68.3%（41人）、1泊2日28.3%（13人）、2泊3日1.7%（1人）、3泊4日1.7%（1人）と、宿泊を伴う人は31.7%であった。

その他都道府県からは、日帰り21.9%（7人）、1泊2日40.6%（13人）、2泊3日28.1%（9人）、3泊4日3.1%（1人）、4泊5日6.3%（2人）、と2泊3日以上の人が1泊2日と同程度の比率を占めている。

長野県から居住地域が遠くなるにつれて宿泊をする比率、及び連泊をする比率が高くなっている。

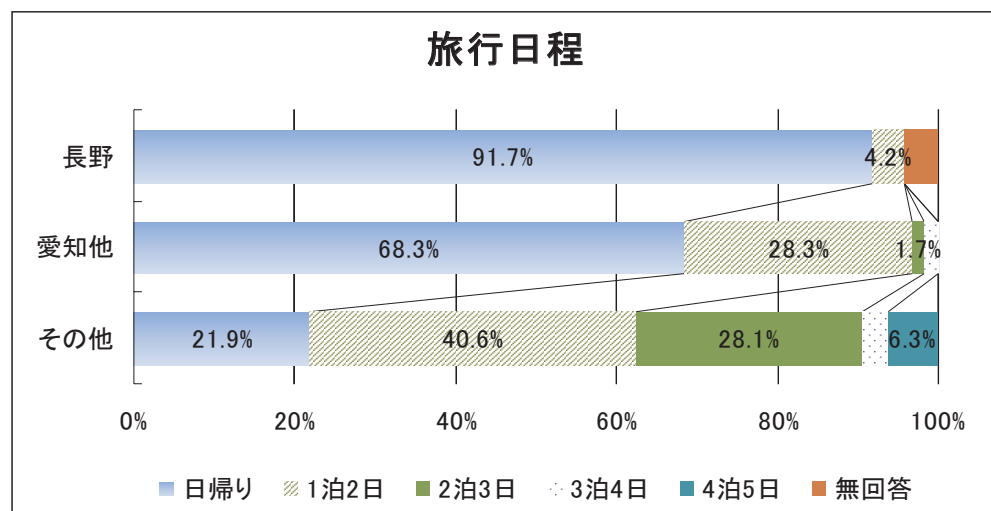


図 2. 来訪者の旅行日程.

愛知他2県の方で宿泊を伴う旅行をされている方19人の中で、主な立ち寄り先を記入された方は1泊2日の方で12人、2泊3日と3泊4日は各1人であった。表1にその一覧を示す。なお主な交通手段はいずれの方もマイカーであった。

表中の丸印（○）は調査当日の主な立ち寄り先を表す。○の付いている日に木曽福島地区または開田高原において調査に協力していただいたことになる。

日程	年齢	1日目	2日目	3日目	旅行相手
1泊2日	20歳代	○アイス	御岳		知人友人
1泊2日	20歳代	○開田高原	御岳		知人友人
1泊2日	20歳代	○開田高原	上高地		職場団体
1泊2日	20歳代	高山	○開田高原		家族(子連れ)
1泊2日	30歳代	馬籠宿	妻籠宿		家族(子連れ)
1泊2日	30歳代	○馬籠宿	妻籠宿		家族(大人のみ)
1泊2日	40歳代	○アイス、松本	上高地		職場団体
1泊2日	40歳代	そば			知人友人
1泊2日	50歳代	松本	上高地		知人友人
1泊2日	60歳代	○犬山 R19,R361 経由濁河温泉	濁河温泉-下呂市-犬山		知人友人
1泊2日	60歳代	のりくら	開田		夫婦
1泊2日	60歳代	別荘	開田		知人友人
2泊3日	60歳代	木曽駒リゾート	開田、御岳	南木曽	家族(子連れ)
3泊4日	50歳代	日光	奥鬼怒		夫婦

表1. 愛知他2県からの来訪者の主な立ち寄り先

その他都道府県からの来訪者で、旅行日程を具体的に書いてくださったものを表2に示す。表中の丸印（○）は表1と同様に調査当日の主な立ち寄り先を表す。

日程	年齢	1日目	2日目	3日目	旅行相手	交通手段
1泊2日	30歳代	開田	群馬		知人友人	マイカー
1泊2日	40歳代	○開田高原			夫婦	マイカー
1泊2日	40歳代	○御岳			知人友人	マイカー
1泊2日	60歳代	開田高原	赤沢森林広口		家族(大人のみ)	鉄道(JR)
1泊2日	60歳代	開田高原	○赤沢森林休養林		家族(大人のみ)	鉄道(JR)
1泊2日	60歳代	○福島	馬籠		職場団体	観光バス
1泊2日	60歳代	○木曽福島	妻籠宿・馬籠宿		職場団体	観光バス
2泊3日	30歳代	開田	軽井沢		知人友人	マイカー
2泊3日	30歳代	○開田	万座		知人友人	マイカー
2泊3日	50歳代	○高山	温泉	帰宅	家族(大人のみ)	マイカー
2泊3日	50歳代	○開田	まごめ、高原		夫婦	マイカー
2泊3日	60歳代	高山	下呂		家族(子連れ)	マイカー
3泊4日	60歳代	奈良井宿	鳥居峠	○木曽福島	夫婦	鉄道(JR)
4泊5日	70歳代	木曽	安曇野		家族(大人のみ)	マイカー

表2. その他都道府県からの来訪者の主な立ち寄り先

2－3 現在地における滞留予定時間と旅行相手

来訪者の調査地点付近（木曽福島地区または開田高原）における滞留（予定）時間を図3に示す。滞留時間が1時間未満の人はどの地域からの来訪者でも、その1／3以上を占めている。滞留時間が2時間未満の人は、長野県62.5%（15人）、愛知他2県56.7%（34人）、その他都道府県50.0%（16人）であった。2時間以上滞留する人は、長野県では33.3%（8人）、愛知他2県では43.3%（26人）、その他都道府県では50.0%（16人）と、遠くから来た人ほど滞留時間が長くなる傾向を示している。

4時間以上滞留する人は、116人中16人（13.8%）で、開田高原12人、木曽福島地区4人であった。居住地別集計では、長野県で12.5%（3人）、愛知他2県で11.7%（7人）、その他都道府県で18.8%（6人）あった。

長野県からの3人の滞留場所はいずれも開田高原で、来訪回数は、はじめて、3～5回、10回以上各1人であった。3人とも主な交通手段はマイカーであった。

愛知他2県からの7人も滞留場所はすべて開田高原で、来訪回数は、2回目1人、3～5回目3人、6～9回目1人、10回以上3人で、主な交通手段はいずれもマイカーであった。

その他都道府県からの6人の滞留場所は、木曽福島地区（上の段の街並み1人、山村代官屋敷3人）4人、開田高原2人であった。来訪回数（主な交通手段）は、木曽福島地区の4人の内訳は、はじめて1人（JR）、2回目1人（観光バス）、10回以上2人（観光バスと中央高速バス各1人）であった。また、開田高原は、初めて2人（マイカー）であった。

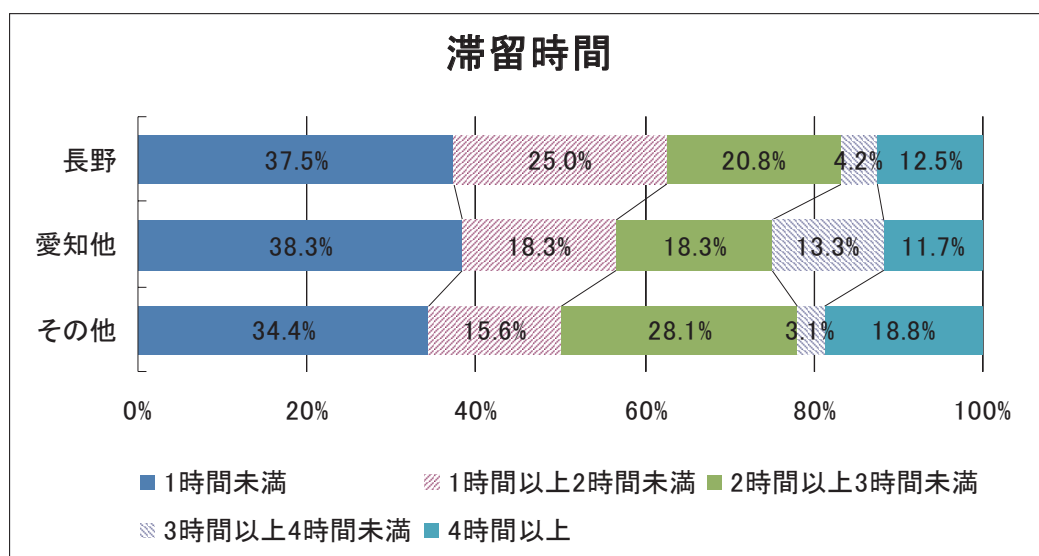


図3. 来訪者の滞留時間.

旅行相手を単純集計した結果は全116人の内、知人友人31.9%（37人）、夫婦25.0%（29人）、家族（子連れ）12.9%（15人）、家族（大人のみ）12.1%（14人）の順であった。

旅行相手のクロス集計した結果を図4に示す。長野県内からの来訪者の旅行相手は、知人友人41.7%（10人）、夫婦20.8%（5人）、家族（大人のみ）12.5%（3人）の順となっている。愛知他2県からの来訪者の相手は、知人友人33.3%（20人）、夫婦26.7%（16人）、家族（子連れ）18.3%（11人）の順で、その他都道府県からの来訪者は夫婦25.0%（8人）、職場団体と知人友人がともに21.9%（7人）、家族（大人のみ）18.8%（6人）の順となっている。

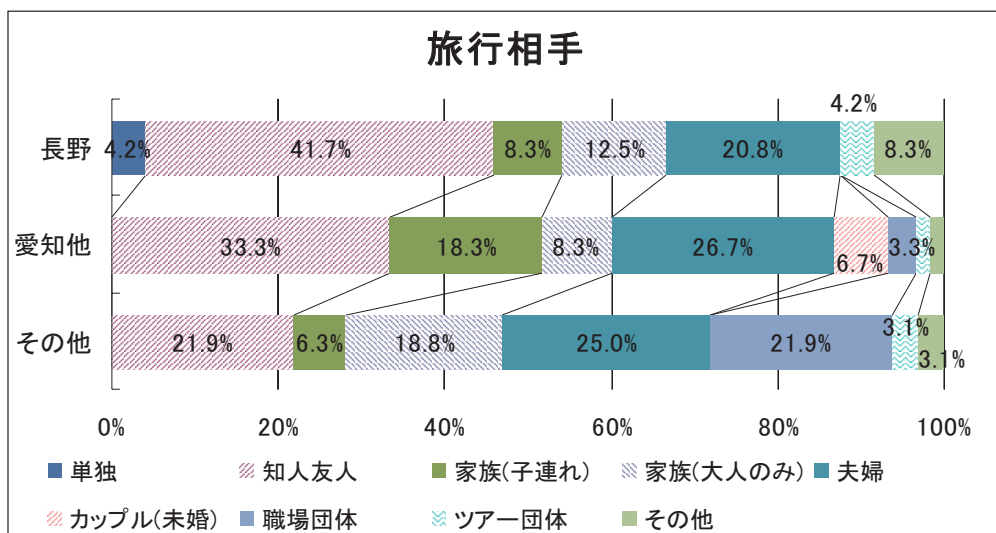


図4. 来訪者の旅行相手.

2-4 主な交通手段

来訪者の主な交通手段を図6に示す。長野県内からは、マイカー91.7%（22人）、観光バス、鉄道(JR)がいずれも4.2%（1人）であった。愛知他2県からは、マイカー96.7%（58人）、自転車3.3%（2人）、その他都道府県からは、マイカー36.3%（8人）、観光バス25.0%（8人）、鉄道(JR)15.6%（5人）、中央高速バス3.1%（1人）の順であった。

今回の調査から開田高原を調査地点に加えたが、いずれの居住地域からの来訪者もマイカーの比率が前年度よりも高くなっている。単純集計を比較すると、2007年の調査では、マイカー26人(全体の6%)、鉄道(JR)14人(全体の24.6%)の順であった。2008年の調査では、マイカー98人(全体の84.5%)、観光バス9人(全体の7.8%)の順となっている。観光バスの増加は、山村代官屋敷前を調査地点に加えたことによると考えられる。

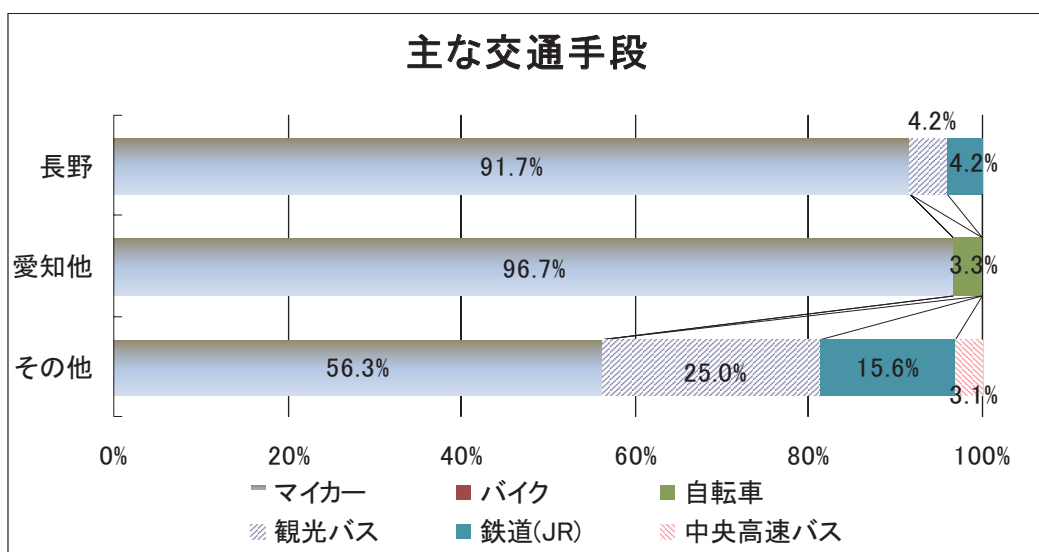


図5. 来訪者の主な交通手段.

2－5 権兵衛トンネルの利用度

権兵衛トンネルを往路に通ってきた人は、長野県の45.8%（11人）、愛知他2県の25.0%（15人）、その他都道府県の59.4%（19人）であった（図6参照）。権兵衛トンネルを帰路に通る予定の人は、長野県20.5%（5人）、愛知他2県21.7%（13人）、その他20.7%（6人）（図7参照）となっている。

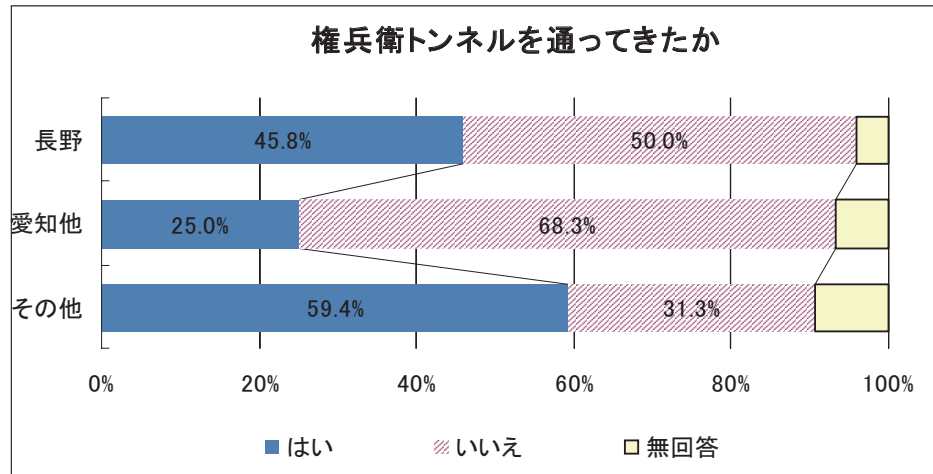


図6．権兵衛トンネルを通ってきたか.

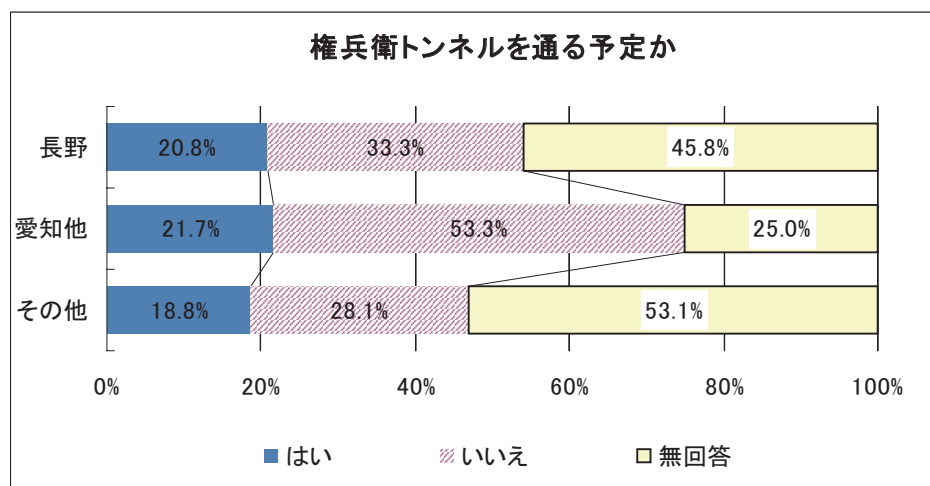


図7．権兵衛トンネルを通る予定か.

権兵衛トンネルの利用度をより詳細に見るために、居住地毎のクロス集計をした結果を表3 a、表3 b、表3 cに示す。①は往路に対する回答、②は復路に対する回答を表す。例えば、表3 aの第2行目は、権兵衛トンネルを通ってきた長野県からの来訪者（11人）のうち4人は帰りにも権兵衛トンネルを通る、1人は通らないと答え、他の6人は無回答であったことを示す。第3行目は権兵衛トンネルを通らなかった人12人のうち1人は帰りも権兵衛トンネルを通る、7人は通らない、4人は無回答であった。第4行は行きも帰りも無回答だった人が1人いることを示す。

	②通る	②通らない	②無回答	計
①通った	4	1	6	11
①通らなかった	1	7	4	12
①無回答	0	0	1	1
計	5	8	11	24

表 3 a 長野県からの来訪者の権兵衛トンネルの利用度

	②通る	②通らない	②無回答	計
①通った	8	0	7	15
①通らなかった	3	32	6	41
①無回答	0	2	2	4
計	11	34	15	60

表 3 b 愛知他 2 県からの来訪者の権兵衛トンネルの利用度

	②通る	②通らない	②無回答	計
①通った	5	2	12	19
①通らなかった	1	7	2	10
①無回答	0	0	3	3
計	6	9	17	32

表 3 c その他都道府県からの来訪者の権兵衛トンネルの利用度

2－6 現在地への来訪頻度と来訪目的

現在地（木曽福島地区、または開田高原）への来訪回数を図 8 に示す。長野県内からの来訪者は、10回以上29.2%（7人）、はじめて25.0%（6人）、3～5回20.8%（5人）、2回目16.7%（4人）、の順となっている。2回以下が51.7%、6回以上のリピータが33.3%（8人）あった。

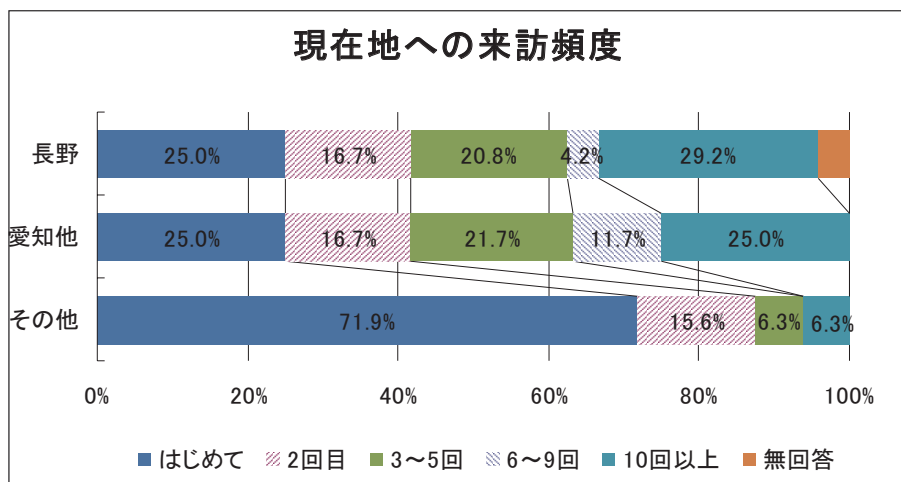


図 8. 木曽福島地区への来訪回数.

愛知他 2 県からの来訪者は、10回以上とはじめてが共に25.0%（15人）、3～5回21.7%（13人）、2回目16.7%（10人）、6～9回11.7%（7人）の順であった。2回以下が41.7%（25人）、6回以上のリピータも36.7%（22人）を占めている。

その他都道府県からの来訪者は、はじめて71.9%（23人）が最も多く、2回目16.4%（5人）、3～5回と10回以上6.3%（2人）がそれに続いている。初めての来訪者の比率は、その他都府県が最も高くなっている。

現在地(木曽福島地区または開田高原)を訪れた目的（3つまで選択）は、単純集計では、紅葉狩り（55人、47.4%）、飲食（34人、29.3%）、温泉(足湯)（30人、25.9%）、その他（30人、25.9%）、木曽駒の里（10人、8.6%）、山村代官屋敷（9人、7.8%）の順であった。秋に調査日したことと、開田高原を調査場所に加えたことの影響が現れている。

居住地域別（図10参照）に見ると、長野県からの来訪者の目的は、紅葉狩り50.0%（12人）、温泉（足湯）29.2%（7人）、その他25.0%（6人）、飲食16.7%（4人）、木曽駒の里とおみやげ12.5%（3人）の順であった。その他に対する記述（6人）は、「風景を見に」、「郡民会館」、「アイスクリーム」、「おそば」などであった。

愛知他 2 県は、紅葉狩り45.0%（27人）、飲食41.7%（25人）、その他25.0%（15人）、温泉（足湯）23.3%（14人）であった。その他に対する記述（14人）は、「旅行の途中」2、「御嶽山」2、「アイス」2、「ドライブ」、「ツーリング」、「木曽馬の乗馬」、「馬を見に」、「写真撮影」、「そば打ち」などであった。

その他都府県は、紅葉狩り50.0%（16人）、温泉（足湯）28.1%（9人）、その他28.1%（9人）、山村代官屋敷21.9%（7人）、福島関所と飲食15.6%（5人）であった。その他に対する記述（7人）は、「開田高原の風里に泊まる為」、「観光」、「父の家に来た」、「ツーリング」、「高山」、「きたことがないから」などであった。

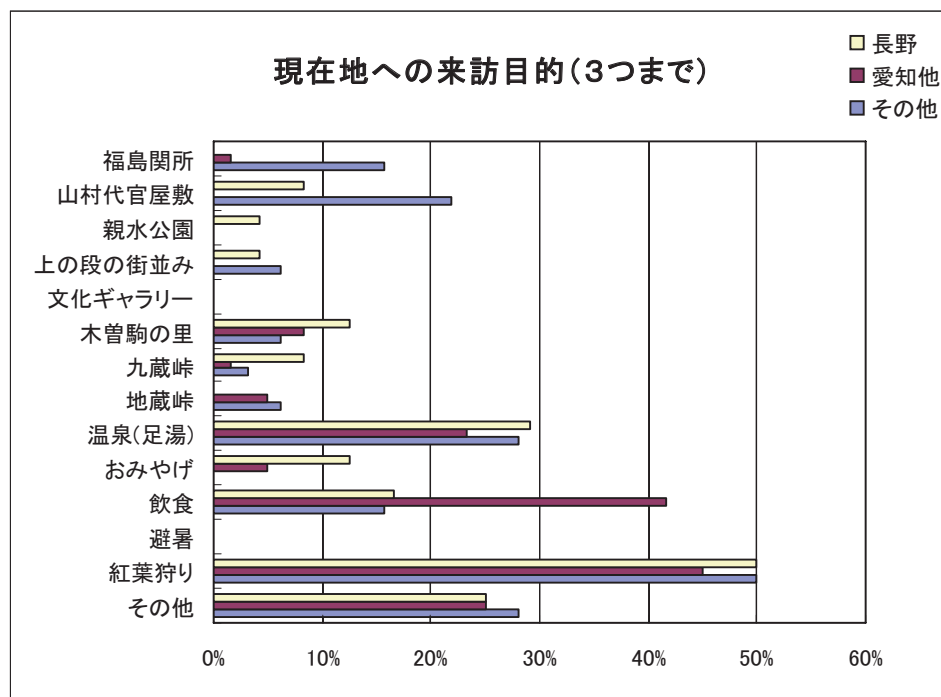


図 9. 木曽福島地区を来訪した目的.

2-7 情報収集の方法

現在地（木曽福島地区または開田高原）に関する情報収集手段（3つまで選択）は、単純集計では以前に来た（34人、29.3%）、インターネット（23人、19.8%）、ガイドブック（19人、16.4%）、口コミ（16人、13.8%）観光パンフレット（14人、12.1%）、テレビ・ラジオ（13人、11.2%）の順であった。

居住地域別の集計結果を図10に示す。長野県内からの来訪者は、以前に来た45.8%（11人）、観光パンフレット25.0%（6人）、口コミとガイドブック12.5%（3人）、ここではじめて、インターネット、テレビ・ラジオがともに8.3%（2人）の順であった。

愛知他2県は、以前に来た30.0%（18人）、インターネット25.0%（13人）、ガイドブック18.3%（11人）、口コミ16.7%（10人）の順であった。

その他都府県は、インターネット25.0%（8人）、その他18.8%（6人）、ガイドブック15.6%（5人）、ここではじめて、観光パンフレット、テレビ・ラジオがともに12.5%（4人）の順であった。

県内からの来訪者にはインターネット利用者は2人しかいなかったが、県外からの来訪者は計21人とよくインターネットを利用している。季節の変わり目などには早めに行事やその季節の特産物等の情報をホームページで紹介すると、県外からの来訪者にはありがたいかもしれない。また、その他都道府県からの来訪者が「ガイドブック」、「観光パンフレット」とともに「ここではじめて」を情報収集の方法として上位にあげているが、立ち寄ったお店に木曽福島地区などのパンフレットが置いてあることが役立っているかもしれない。

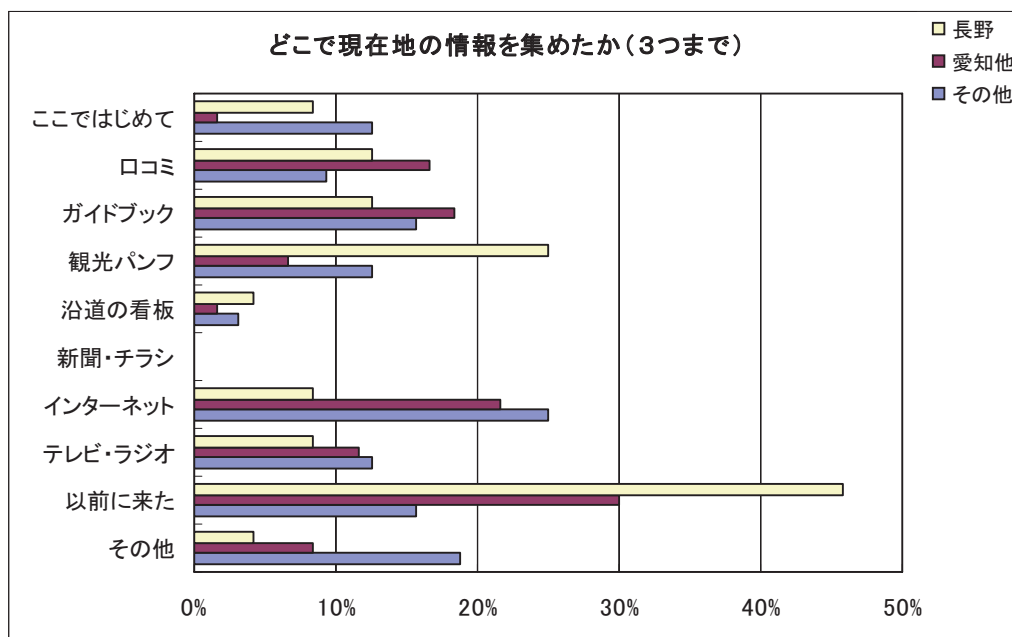


図10. 木曽福島地区の情報収集手段.

2-8 木曽地域で楽しんだこと

この地域で有料で楽しんだこと（3つまで選択）に対する単純集計の結果は、計57人中、飲食（50人、43.1%）、温泉（24人、20.7%）、特産品の購買（14人、12.1%）、博物・資料館（11人、9.5%）の順であった。

居住地域別の集計結果を図11に示す。長野県内からの来訪者は、飲食25.0%（6人）、博物・資料館16.7%（4人）、特産品の購買8.3%（2人）で楽しんだことになる。愛知他2県からの来訪者は、飲食56.7%（34人）、温泉30.0%（18人）、特産品の購買13.3%（8人）の順であった。その他

都府県からの来訪者は、飲食31.3%（10人）、博物・資料館18.8%（6人）、温泉とその他は共に15.6%（5人）、産品の購買12.5%（4人）で楽しんでいる。

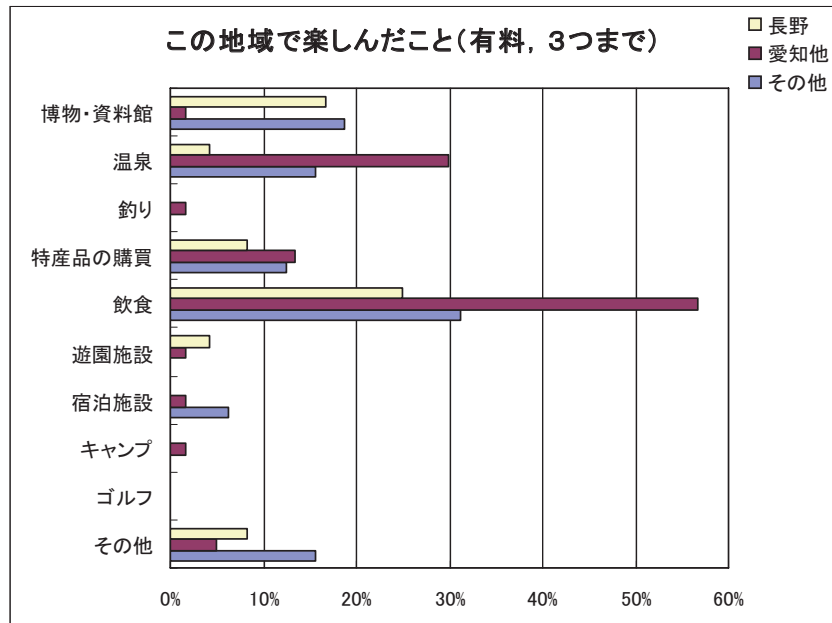


図11. この地域で有料で楽しんだこと.

この地域で無料で楽しんだこと（3つまで選択）は、単純集計では、自然の風景（64人、55.2%）が断然トップで、それに写真撮影（22人、19.0%）、ドライブ（20人、17.2%）、街歩き（12人、10.3%）が続いている。

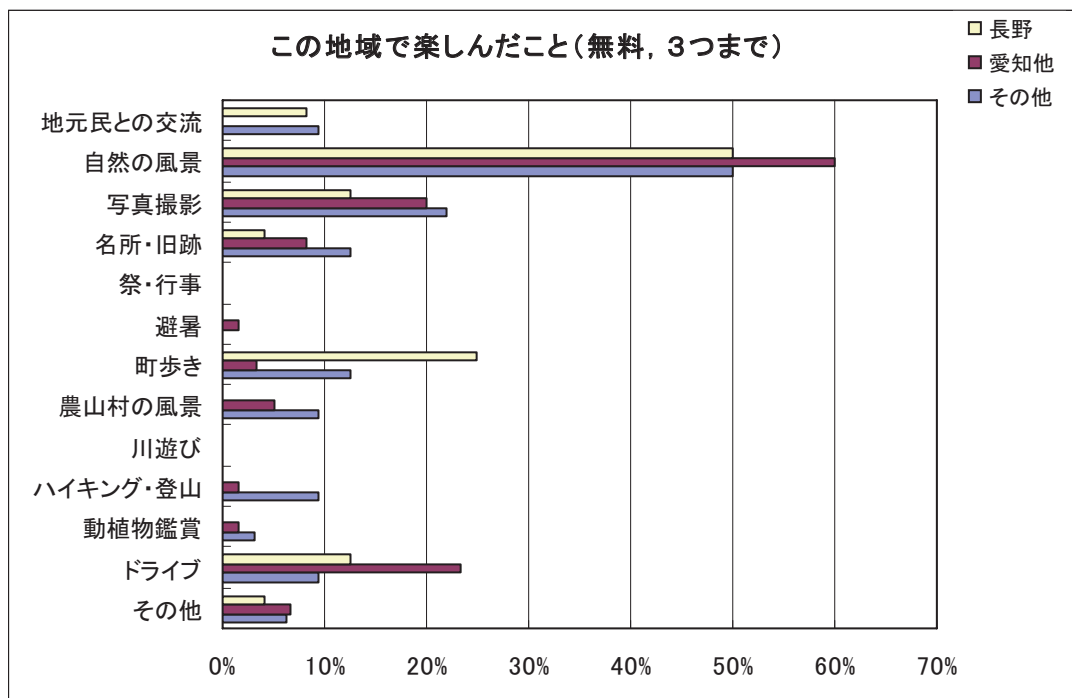


図12. この地域で無料で楽しんだこと.

居住地域別の集計（図12参照）では、長野県からの来訪者は、自然の風景50.0%（12人）、街歩

き25.0%（6人）、ドライブ、写真撮影12.5%（3人）の順になっている。愛知他2県からの来訪者は、自然の風景50.0%（12人）、街歩き20.8%（5人）、名所・旧跡と写真撮影とドライブがともに23.5%（4人）の順であった。その他都府県からの来訪者は、自然の風景64.7%（9人）、写真撮影29.4%（5人）、街歩き23.5%（4人）、避暑と名所・旧跡17.6%（3人）の順となっている。どの地域に居住されている方も自然の風景を1番にあげている。

2－9 求める情報

この地域に関するほしい情報を単純集計した結果は、食事の楽しめる場所（49人、42.2%）、温泉施設（42人、36.2%）、自然にふれあえる場所（39人、33.6%）、ドライブコース・道路（28人、24.1%）、季節のイベントや催し（23人、19.8%）、農産物直売所（23人、19.8%）の順であった。

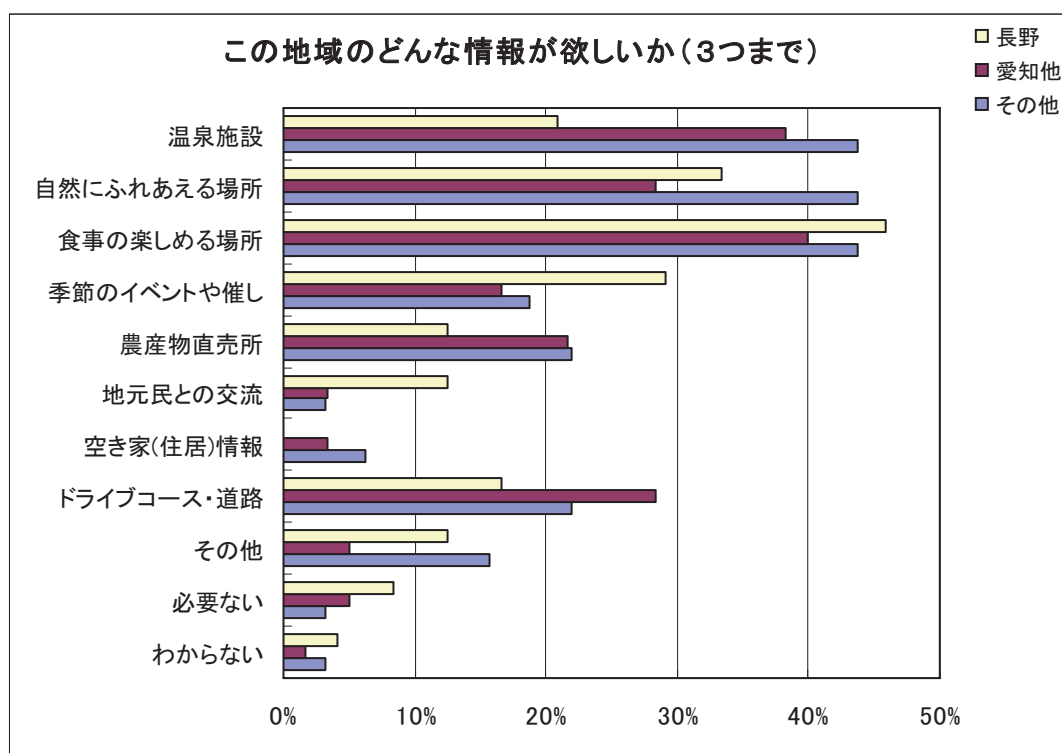


図13. この地域に関するほしい情報.

居住地域別に見ると、図13に示すように長野県内からの来訪者は主に、食事の楽しめる場所45.8%（11人）、自然にふれあえる場所33.3%（8人）、季節のイベントや催し29.2%（7人）、温泉施設20.8%（5人）、ドライブコース・道路16.7%（4人）をあげている。愛知他2県は、食事の楽しめる場所40.0%（24人）、温泉施設38.3%（23人）、自然にふれあえる場所33.3%（17人）、ドライブコース・道路33.3%（17人）、農産物直売所21.7%（13人）、季節のイベントや催し16.7%（10人）の順であった。その他都府県は、食事の楽しめる場所、温泉施設、および自然にふれあえる場所がいずれも43.8%（14人）、農産物直売所とドライブコース・道路がともに21.9%（7人）、季節のイベントや催し18.8%（6人）の順であった。

居住地域によって、多少順番は異なるが、単純集計の上位6項目がどの地域の方も求めている情報ということになる。

2-10 気に入っている観光スポット

この地域（木曽）周辺で行ったことがあり、気に入っている場所に対する集計結果を図14から図16に示す。

国道361号線沿いにある観光スポット（3つまで選択）に関して単純集計した結果は、開田高原（48人、41.4%）、アイスクリーム工房（開田高原）（43人、37.1%）、木曽駒の里（24人、20.7%）、九蔵峠展望台とやまゆり荘がともに（14人、12.1%）の順であった。

居住地域別に集計した結果を図14に示す。長野県内からの来訪者は、アイスクリーム工房37.5%（9人）、開田高原33.3%（8人）、九蔵峠展望台12.5%（3人）、二本木の湯12.5%（3人）の順となっている。愛知他2県は、開田高原48.3%（29人）、アイスクリーム工房45.0%（27人）、木曽馬の里28.3%（17人）、やまゆり荘20.0%（12人）、きそふくしまスキー場13.3%（8人）、九蔵峠展望台11.7%（7人）となっている。その他都府県は、開田高原34.4%（11人）、アイスクリーム工房（開田高原）21.9%（7人）、九蔵峠展望台12.5%（4人）、木曽馬の里とふるさと体験館きそふくしまがともに9.4%（3人）であった。

愛知他2県およびその他都道府県からの来訪者がもっとも気に入っている場所は開田高原であった。長野県内からの来訪者にとっても開田高原にあるアイスクリーム工房を含めると、開田高原は魅力ある観光スポットといえるであろう。また、きそふくしまスキー場は、愛知他2県の居住者に知られていることがわかる。

この問に対しては、長野県居住者は平均すると1.3個、愛知他2県は1.8個、その他県外は1.0個の項目を選んでいる。愛知他2県の方が国道361号線沿いの観光スポットをよくご存じであることを示している。

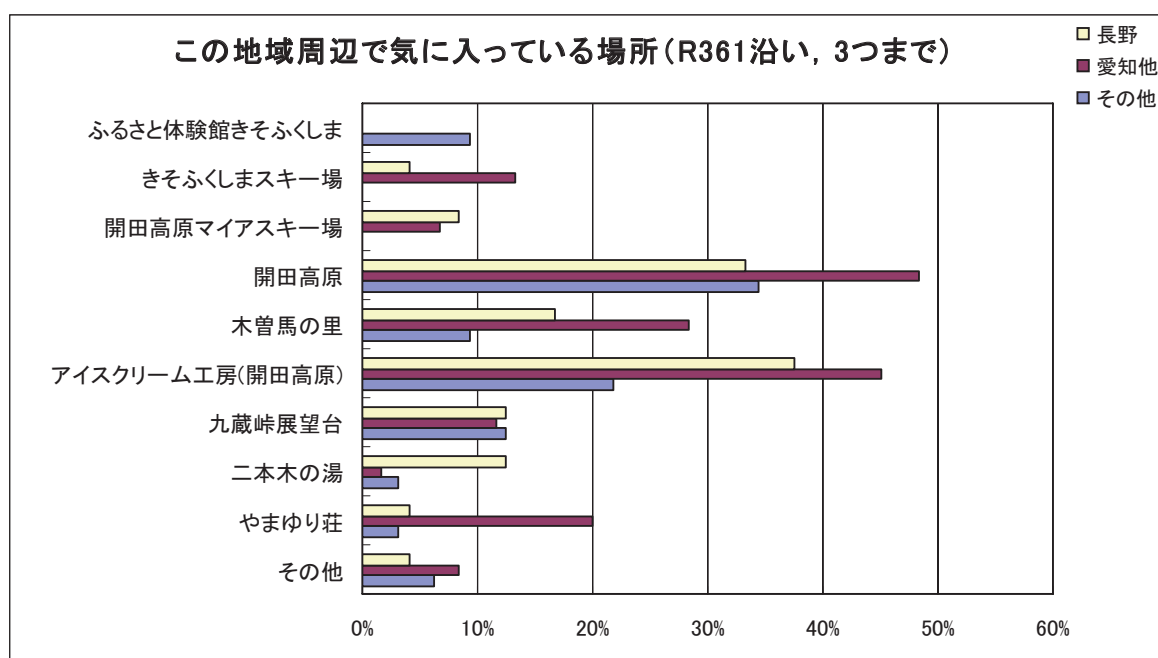


図14. 行ったことがあり、気に入っている場所（R361号線沿い）。

国道19号線沿いの観光スポット（5つまで選択）に関して単純集計した結果は、妻籠宿（45人、38.8%）、馬籠宿（42人、36.2%）、寝覚めの床（39人、33.6%）、奈良井宿（23人、19.8%）、道の駅大桑（木楽舎）（18人、15.5%）、赤沢自然休養林（14人、21.1%）の順で、旧宿場町3カ所と寝覚めの床が上位4位までを占めている。

県内からの来訪者は、寝覚めの床25.0%（6人）、妻籠宿25.0%（6人）、赤沢自然休養林25.0%（6人）、奈良井宿15.6%（4人）、木曽くらしの工芸館、日義木曽駒高原道の駅、馬籠宿がいずれも12.5%（3人）の順であった。

愛知他2県は、馬籠宿53.3%（32人）、妻籠宿50.0%（30人）、寝覚めの床36.7%（22人）、道の駅大桑（木楽舎）26.7%（16人）、奈良井宿23.3%（14人）となっている。

その他都府県は、寝覚めの床34.4%（11人）、妻籠宿28.1%（9人）、馬籠宿21.9%（7人）、奈良井宿15.6%（5人）、木曽駒高原12.5%（4人）の順であった。

国道19号線の観光スポットは、県内居住者は平均1.7項目、愛知県他2県は2.6項目、その他都道府県は1.8項目選んでいる。

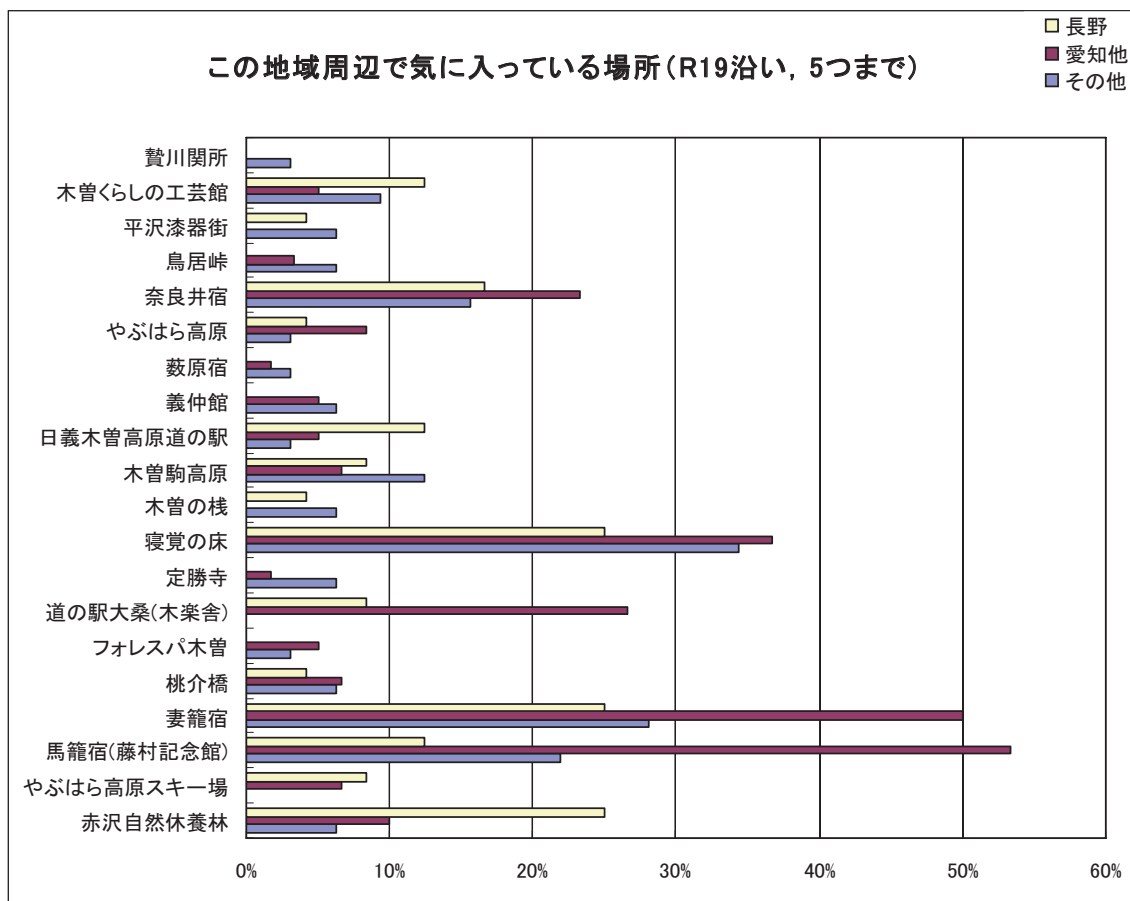


図15. 行ったことがあり、気に入っている場所（R19号線沿い）.

その他の観光スポット（3つまで選択）の単純集計では、御嶽山（39人、33.6%）、御岳ロープウェイ（17人、14.7%）、木曽駒ヶ岳（17人、14.7%）、おんたけスキー場（14人、12.1%）の順となっている。

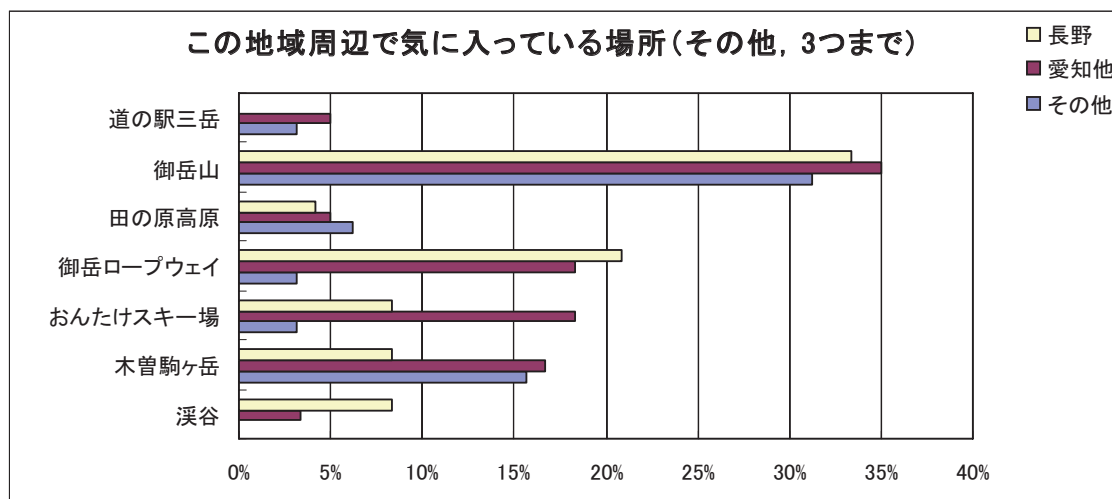


図16. 行ったことがあり、気に入っている場所(その他).

居住地別にクロス集計した結果は、長野県は御嶽山33.3% (8人)、御岳ロープウェイ20.8% (5人)が10%を超えている。愛知他2県は御嶽山35.0% (21人)、御岳ロープウェイ18.3% (11人)、おんたけスキー場18.3% (11人)、木曽駒ヶ岳18.3% (11人)の順となっている。その他都道府県は、御嶽山31.3% (39人)、木曽駒ヶ岳15.7% (5人)が大部分を占めている。

2-11旅行予算とお土産代

旅費と宿泊費を除く旅行の一人当たりの予算を図17に示す。図2からわかるように、長野県内からの来訪者、愛知他2県からの来訪者、その他都道府県からの来訪者の順に宿泊を伴う伴う割合が高くなっている。さらに、その他都道府県の方が愛知他2県よりも連泊する比率が高い。これらの旅行日程を反映して、長野県内、愛知他2県、その他都道府県の順に旅行予算が増加している。

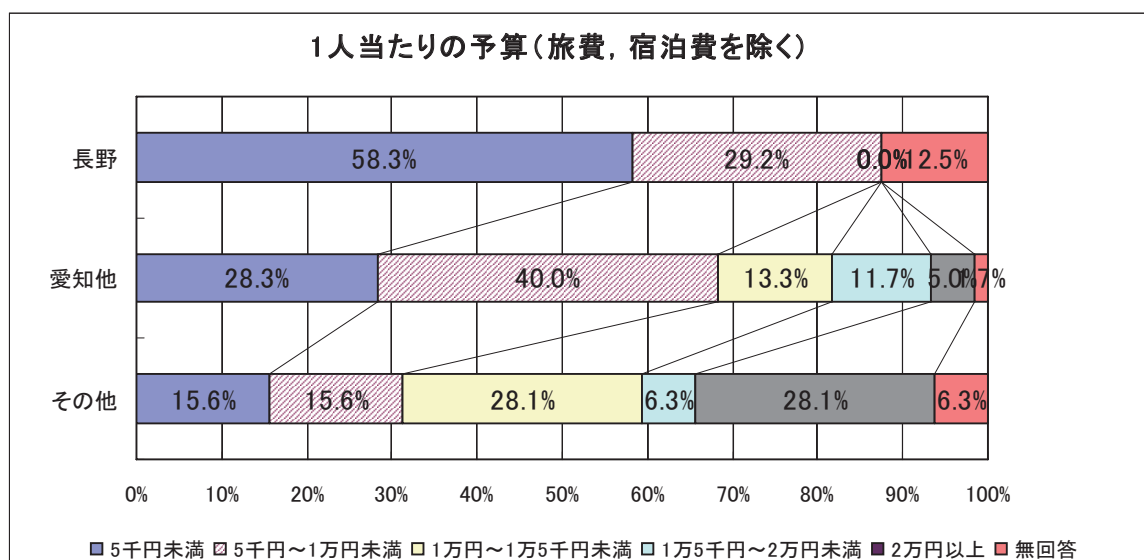


図17. 旅費、宿泊費を除いた旅行の予算.

旅費と宿泊費を除く旅行の一人当たりの予算の中に含まれる、自分へのお土産代の集計結果を図18に示す。長野県内からの来訪者は、2千円未満62.5% (15人)、2千円以上4千円未満8.3% (2

人) と 4 千円未満が70.8%を占め、無回答を除くとすべて 4 千円未満となっている。

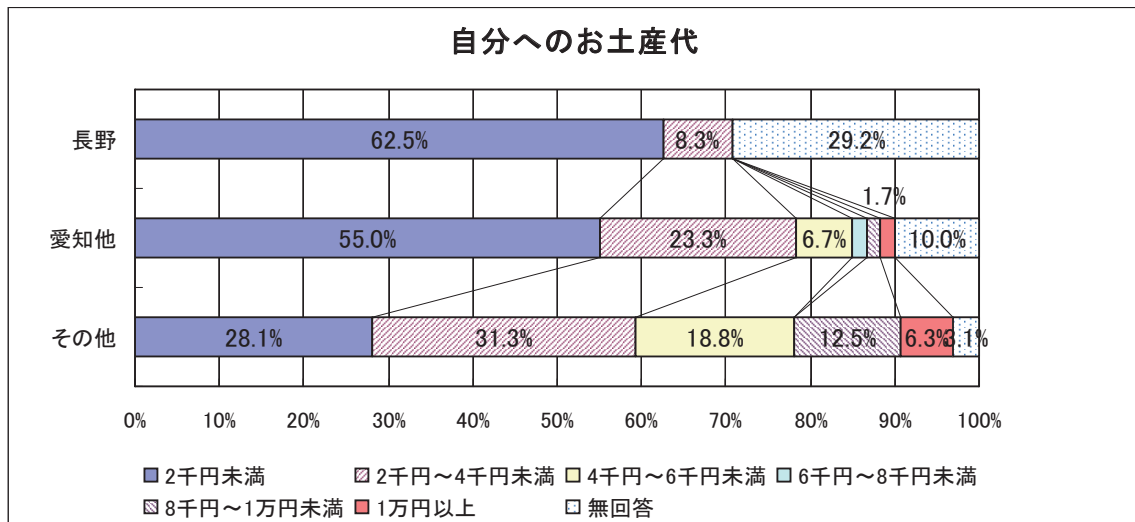


図18. 自分へのお土産代.

愛知他 2 県からの来訪者は、2 千円未満55.0% (33人)、2 千円以上 4 千円未満23.3% (14人) と 4 千円未満が78.3%を占め、4 千円以上は11.7% (7 人) であった。その他都道府県からの来訪者は、2 千円未満28.1% (9 人)、2 千円以上 4 千円未満31.3% (10人) と 4 千円未満が59.4%を占め、4 千円以上は21.9% (7 人) であった。長野県外からの来訪者の方が県内からの来訪者よりも自分へのお土産代は若干多いようだ。

自分へのお土産に何を買ったかの問いに対して、記入していただいた品目を表 4 にあげる。

長野		愛知他		その他	
品目	度数	品目	度数	品目	度数
アイスクリーム	3	アイスクリーム	4	林檎	3
栗こもち	3	栗きんとん(きんとんを含む)	3	お箸	2
一太くち	1	そば	3	酒	2
いも娘	1	野菜	3	漆器(木のお碗を含む)	2
山菜	1	ヨーグルト	3	漆塗りコマ	1
そば	1	きのこ	2	砂糖入れ	1
漬物	1	漬物	2	米	1
和菓子	1	農産物	2	塩	1
		置物	1	食品	1
		果物	1	アクセサリー	1
		ご当地ステッチ	1	蕎麦饅頭	1
		酒	1	奈良漬	1
		地場産季節物	1	しゃもじ	1
		食料品	1	耳かき	1
				ふくろうの鈴	1

表 4. 自分用のお土産として購入したもの

2－12木曽路の印象

木曽路の印象を図19に示す。よい印象を持った人は、長野県、愛知他2県、その他都道府県の順に高くなっている。

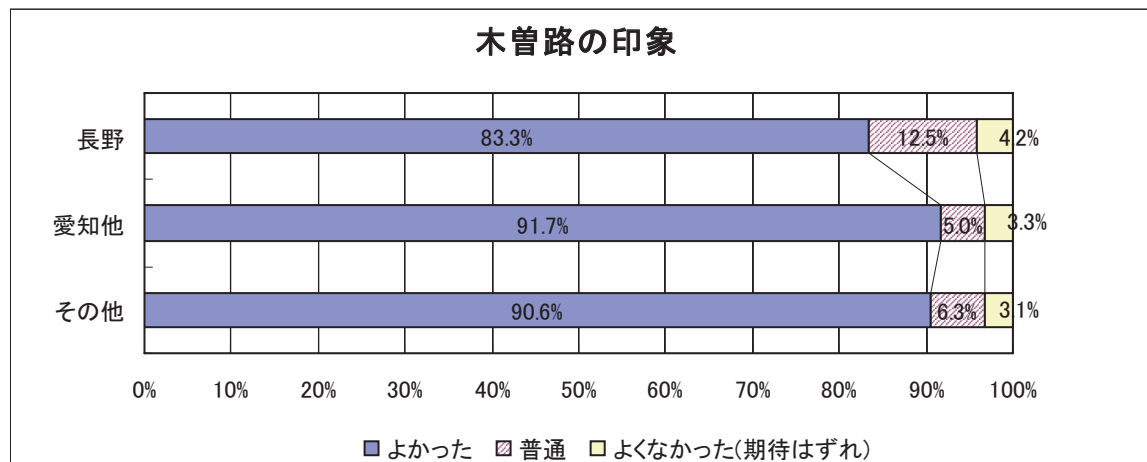


図19. 木曽路の印象.

木曽福島町にまた来たいかという問いに関する集計結果を図20に示す。どの居住地域からの来訪者も、是非来たいと機会があれば来たいを合計すると80%を超え、木曽福島地区には好印象を持っている。

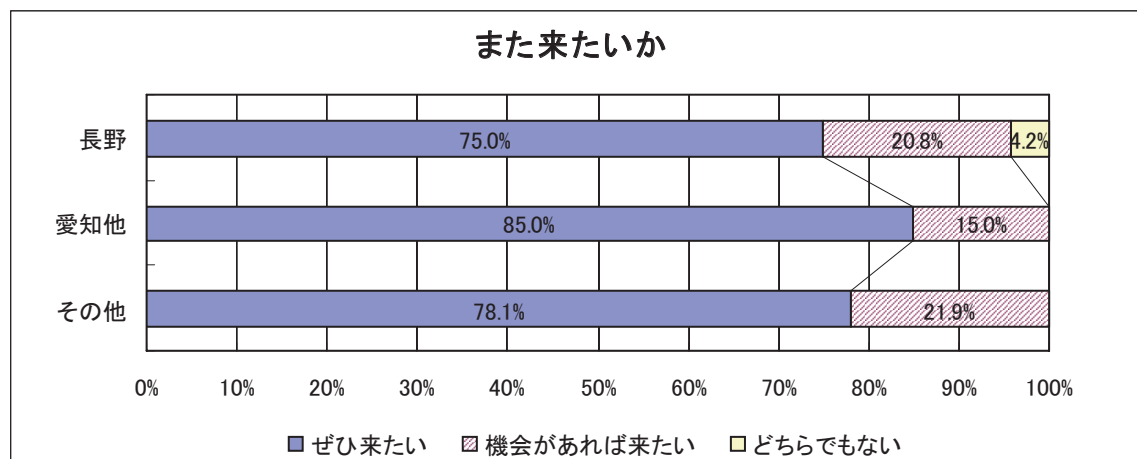


図20. 木曽福島町にまた来たいか.

3. まとめ

木曽福島地区または開田高原を来訪した方に対して2008年10月に行ったアンケート調査の結果を、長野県、愛知他2県（愛知、静岡、岐阜）、その他都道府県からの来訪者の3つの居住地域に分けて集計・分析した。

2008年の調査では、居住地別集計でもっとも比率の高い年代層は、長野県は50歳代37.5%（9人）、愛知他2県は50歳代と60歳代がともに26.7%（16人）、その他都道府県は60歳代が40.6%（13人）と、どの地域からも比較的年齢層の高い層がよく訪れている。50歳代以上で比較すると、長野県は

41.7%（10人）、愛知他2県は55.0%（33人）、その他都道府県は71.9%（23人）と、長野県から遠くなるほど50歳以上の人の割合が高くなっている。20歳以下の割合は、長野県は37.5%（9人）、愛知他2県は16.7%（10人）、その他都道府県は0.3%（1人）と長野県から遠くなるほど割合は低くなっている。

宿泊を伴う旅行をされている方には主な立ち寄り先を記入していただくようにしているが、愛知他2県からの来訪者は20歳代から60歳代の方まで、その他都道府県からの来訪者は30歳代から70歳代までの方に記入していただけた。20歳代と30歳代の方の割合は、愛知他2県からの方がその他都道府県よりも大きくなっている（表1、表2参照）。

今回（2008年度）の調査では、来訪回数が6回以上の方は、長野県（24人中）33.3%（8人）、愛知他2県（60人中）36.7%（22人）、その他都道府県（32人中）0.7%（2人）であった。また、初めて来訪した方は、長野県25.0%（2回目以下32.7%）、愛知他2県25.0%（2回目以下32.7%）、その他都道府県71.9%（2回目以下87.5%）であった。2回目の来訪者の比率はその他都道府県の方が長野県、愛知他2県よりも遙かに高くなっている。

木曽福島地区を来訪された方の当地に関する情報入手方法は、「以前に来た」、「インターネット」、「ガイドブック」、「口コミ」、「観光パンフレット」の順になっている。特に、「インターネット」は長野県と愛知他2県では最上位になっている。季節季節の変わり目に、催しもの情報、季節のお菓子や特産物などの情報をホームページで紹介することも旅心をそそぐことに役立っているかもしれない。

この地域でほしい情報は、「食事の楽しめる場所」、「温泉施設」、「自然にふれあえる場所」、「ドライブ・コース」、「季節のイベントや催し」、「農産物直売所」の順となっている。これらの情報を得るために、インターネットが重要な手段となっていることが伺える。

お気に入りの場所に関する今回の調査では、国道361号線沿い（3つまで選択）では、上位から、「開田高原」、「アイスクリーム工房（開田高原）」、「木曽駒の里」、「九蔵峠展望台」、「やまゆり荘」があがっている。

国道19号線沿い（5つまで選択）では、「妻籠宿」、「馬籠宿」、「寝覚めの床」、「奈良井宿」、「道の駅大桑（木楽舎）」の順となり、木曽路の3つの宿場町と寝覚めの床が上位を占めている。

その他のお気に入りの場所は、「御嶽山」、「木曽駒ヶ岳」、「御岳ロープウェイ」、「おんたけスキー場」の順となっている。

木曽地域で有料で楽しんだことは（116人中）、飲食（50人、43.1%）、温泉（24人、20.7%）、特産品の購買（14人、12.1%）、博物・資料館（11人、9.5%）の順であった。無料で楽しんだことは、自然の風景（64人、55.2%）、写真撮影（22人、19.0%）、ドライブ（20人、17.2%）、街歩き（12人、10.3%）の順であった。

謝辞

この調査を行う際に木曽町企画調整課まちづくり係の方々に協力をして頂いた。この場を借りて感謝いたします。

この調査に参加した学生は、当時松本大学総合経営学部3年生4名（小岩井彩花、堀井理穂、三澤知枝、山崎里美）、2年生7名（荒木侑樹、小林貴之、清水雄介、土橋一也、手塚秀人、平賀理紗、金子竜樹）であった。